



いのちを守る、暮らしを守る。

2017年12月15日 第67号

東京都議会議員
都議会公明党

遠藤守レポート

決算・常任委で活発に質疑

10月半ばから12月はじめにかけ、都議会では、平成28年度の決算審議や、それぞれの議員が席をおく常任委員会（遠藤守都議は厚生委員会）において、都の事務・事業に関する質疑が断続的に行なわれ、遠藤都議は、医療、食の安全、震災対策、女性の創業支援、中小企業支援などについて、関係各局に質問しました。

「樹林墓地」拡充すべき

10月25日の決算質疑では、都立霊園の樹林墓地の拡充を訴えました。樹林墓地は、お墓の継承者がいない、一般墓地に比べ使用料が安いなどの理由で都民ニーズが高く、都立霊園唯一の小平霊園の施設【写真】では、平成24年の公募開始以降、高倍率が続いています。

遠藤都議の提案に対し、都建設局は「郊外にある多摩、八柱、小平、八王子の4霊園について、各霊園の特性や景観等を考慮しながら、設置場所や施設の形態を検討する」と答え、樹林墓地を拡充する意向を示しました。



「南四水門」の早期耐震化、中小零細企業におけるマイナンバー取り扱い支援、伊豆大島の災害復旧などの推進を強力に訴えました。



A Y A世代のがん患者支援についてヒアリング

がん対策計画など議論

11月2日の福祉保健局に対する事務事業質疑で遠藤都議は、都の次期がん対策推進計画の検討状況を確認するとともに、同計画のなかに、病院・在宅双方における「緩和ケア」の充実、A Y A世代（概ね15歳～39歳）の患者支援を明記するよう訴え、都も賛意を示しました。この他、今年1月に発生した偽造医薬品の流通問題を取り上げ、再発防止の強化を訴えました。

一方、これに先立ち行なわれた病院経営本部への質疑（10月17日）では、病状が回復したにもかかわらず、独居や経済問題などから退院できない「帰宅復帰困難者」支援に関する都立病院等の役割をただしました。